

口語詩句奨学生の総評でみなさんにお伝えしたいことは、昨年も同様のことを書きましたが、選者ひとりひとりの過去の総評をぜひ主体的に読み返していただきたいということです。本選は投票形式ですので全体の選考過程というものがありません。ですからご自身で本選の全体を見渡して自作のどのようなところが多くの選者に評価されたのかをなんとなくでもつかんでいただきたいと思うのです。そのためには自作への評だけでなく、ほかの投稿者への評も腰をすえて読まなければなりません。ちょっと大変かもしれませんが、それによって「口語詩句奨学生」になられたことの意義をより高めて、学生生活をより素晴らしいものにしていただけたら幸いに思います。

奨学生に選ばれた方のなかには、悩んだ結果、選に入れなかった方もいますが、今こうやってまとまったかたちで読んでみますと、特段違和感はおぼえず、すべての入選に異論はないと感じます。また、改めて惚れ惚れとした作品もあります。たとえば、「夜明けには天皇陛下になる君を／呼び捨てにした最後のハイウェイ」清水将也(筆名・源楓香)がそうです。「天皇陛下」という言葉の唐突な出現が効いていて、意外な抒情をつくりだしています。

ほか、強く印象に残った作品を挙げます。

「私は布団を売るために生まれ／実際たくさん野菜を売り／よく壁をながめていた」郡司和斗(茨城県)

「博物館で三ツ矢サイダーを／飲んだ後とても未完成な息をはく」白野実悠(筆名・白野)(新潟県)

「警官はたんぽぽに職質をしない／すごく危険な思想家なのに」松下誠一(東京都)

「(バカマヌケ)／手話の喧嘩で／(アホノロマ)／忍法をかけ合う河川敷」杉原健吾(筆名・Flim)(東京都)

「かき氷徒歩圏内がぜんぶ晴れ」中矢温(東京都)

そして、以下の方々は今回は残念ながら選外でしたが、個人的には入選でもふしぎではないと思っています。

「しゃぼん玉／ぜったいそんなことはない」土田真央(滋賀県)

(ほか「水鳥のはなしなるべくふまじめに」「メロノームの馬鹿騒ぎ」なども面白いと思いました)

「謝って楽になりたいところ透ける／あなたの身体に／ウエディングドレス」豊富瑞歩(茨城県)

「凶暴になってみたい／そのあとは／天をつらぬく塔になりたい」青木雅史(筆名・青木雅)(埼玉県) 一途な祈りに心をうばわれます。

「今月の仕事通りの金が来て／なにか変だと思っはいる」大嶋碧月(石川県)

「生活リズム崩しきって／草書体の死が滲む」宮幡大義(筆名・小沢旭)

「誕生日がおもしろくないのなら／大きい梨をひとりじめしな」植村日向(愛知県)

最後に。長い目でみれば、結果もまた一つの過程にすぎないでしょう。よろこびすぎず、かなしみすぎず、これからも書き続けてください。